

Title	Library and Information Science投稿規程 ; 論文執筆要綱
Sub Title	
Author	
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2019
Jtitle	Library and information science No.81 (2019.) ,p.47- 48
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000081-0047

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Library and Information Science

投 稿 規 程

(2018年12月30日改訂)

- 個人会員は投稿できる。共著の場合、少なくとも著者の一人は個人会員でなければならない。
- 投稿原稿は、原著論文、展望論文の2種類とし、未刊行の原稿に限る。
 - 原著論文 (original article) は、オリジナルな研究成果を完成した形で公表するもので、研究の背景に関する説明や、研究成果の意義について熟慮した考察を含むものとする。
 - 展望論文 (review article) は、特定の領域・テーマに関する文献を網羅的に概観し (目安として100件程度もしくはそれ以上), 最新の研究動向を一定の観点から整理したものである。
- 原稿の長さについては、論文執筆要綱の1. c) に従う。原稿は随時受け付けている。
- 投稿方法
 - 投稿原稿には以下のものを含めることとする。
 - a) 標題紙, b) 要旨 (和・英), c) 目次, d) 本文, e) 注・引用文献, f) 図・表等それぞれの記載方法は論文執筆要綱を参考にすること。なお標題紙とは別に著者 (複数の場合は代表者) の連絡先の住所とメールアドレスを投稿の際のメールに明記すること。これらは編集作業にのみ使用する。
 - Word もしくは PDF ファイルを送付すること。上記 a)~f) をまとめて一つのファイルにするかもしくは f) 図・表等とそれ以外の計二つのファイルにするかいずれかを選択して投稿すること。
 - 当学会ウェブサイトに掲載されている「投稿

チェックリスト」に記入して併せて送付すること。

- 投稿先
 - Library and Information Science 事務局
メールアドレス: lis-edit@ml.keio.jp
 - 投稿は原則としてメールでのみ受け付ける。容量オーバーなどの理由でメールで送れない場合は電子媒体を以下に郵送すること。なお投稿した旨を併せて上記メールアドレスにも連絡すること。
- 送付先: 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学文学部図書館・情報学専攻内
Library and Information Science 事務局
なお投稿原稿は返却しない。
- 投稿論文の掲載は、査読者 (原著論文・展望論文2名, 以前に存在した原稿種別「短報」については1名) の査読結果に基づき、編集委員会が決定する。投稿原稿が事務局に到着した日を受付日とし、編集委員会で掲載を許諾した日を受理日とする。査読結果によっては修正原稿を求める場合がある。修正原稿の書式は最初の投稿と同様に規定3に従う。
- 掲載決定後に最終稿を事務局宛に提出する場合には、メールでのファイル送付に加えて、プリントアウト2部を事務局宛に郵送すること (送付先は規定4参照)。なお、その後、事務局で形式等を確認し、再度の提出を求めることがある。
- 論文の著作権は三田図書館・情報学会に帰属する。著作権譲渡同意書については規定の書式を準備している。詳細に関しては事務局に問い合わせること。

論文執筆要綱

(2019年7月30日改訂)

- 原稿書式
 - a) A4判、横書きとする。
 - b) 横40字、縦40行とする。
 - c) 原稿は、本文・謝辞・引用文献・図表・付録を合わせて、25枚以内とする。
 - d) 図表・付録は、適宜、間を詰めて1枚に複数件を印刷することができる。ただし、順序は入れ替えないこと。また、印刷にあたっては、文字の大きさは10.5pt以上とし、余白は上下左右3cmとすること。
- 論文の構成
論文は、a) 標題紙, b) 要旨 (和・英), c) 目次, d) 本文, e) 注・引用文献, f) 図・表等からなるものとする。
 - a) 標題紙 1枚の用紙に、以下6項目を記載する。
 - (1) 投稿論文種別 (和)
 - (2) 標題 (和・英)

- (3) 執筆者名 (和・英)
 - (4) 所属機関 (和・英)
 - (5) 住所 (和・英)
 - (6) メールアドレス
- 上記(1)~(6)の情報は冊子体と電子版の雑誌にそのまま記載される。(5)に関して記載を望まない場合は、「記載不可」と明記すること。

- b) 要旨 当該論文の要旨を【目的】【方法】【結果】(Purpose, Methods, Results) に分けて、和文は総文字数800字以内、英文は250 words以内で記述する。ただし、展望論文の場合は【目的】だけでもよい。英文と和文で内容が異なるないように留意すること。英文はネイティブチェックを受けること。
- c) 目次 本文の章・節名のリストを作成する。
- d) 本文 章、節、項などのたて方は、次の順序によることを原則とする。なお、章の見出しへページの中央に、節以下は左づめとする。
 - I.章 (前後1行をあける)

- A.節（前1行をあける）
 1.項（前1行をあける）
 a.目
- e) **注・引用文献** 一括して、本文の後にページを改めて、注・引用番号の順に列挙する。なお、「注」は最小限にとどめること。
 f) **図・表** 注・引用文献の後に別途まとめる。
3. **文章・表記など**
- a) **文章** 文章は原則として常用漢字と現代かなづかいを用いる。
 b) **記号** 以下の記号は、特定の用法で用いる。
 ()説明・その他付加的に記述する事柄
 “ ”引用箇所の表示
 c) **書名** 文中における欧文の書名・誌（紙）名はイタリック体とする。邦文書名・誌（紙）名は『 』で囲んで示す。
 d) **表** 表はその上部に 第〇表 と標記し、標題を添える。
 e) **図, 写真** 図や写真是、その下部に 第〇図、写真〇などと標記し標題を添える。
 f) **注記** 表、図、写真に注記の必要があるときは、肩付き番号1,2...として図・表等の下部に付記する。なお、他の資料によるものはその出典を明記する。
 g) **挿入箇所** 表、図、写真の挿入箇所は改行して【 】で明記する。
 本文
- 【第1表】
- 本文
- h) 本文の始まりから注・引用文献の終わりまで、連続のページ付を行い、原稿の下部にノンブルを付与する（標題紙からの一連番号になってもよい）。

4. 引用

- (1) 他の文献から引用した場合は、必ず引用符“ ”を用い、かつ末尾の右肩に半カッコに入れた一連番号をつける。
 例：“情報検索モデル研究における最近の大きな動きとして、言語モデルの導入がある”¹⁾。
- (2) なお、引用文が長く、独立した段落として表示する必要があるときは、その前後に各1行の空白行をおき、かつその行の左端の2字分を全体にわたって空

白とする。

例：

(1行空白)

データ項目（データ要素）とは、基本的にデータ管理の単位であり、これが集まりレコードを構成する。それゆえ、いかなる単位（まとまり）でデータ操作や管理を行う必要があるのかという観点から決まることになる。

(1行空白)

- (3) 引用箇所を特に示す必要がある場合には、本文において引用番号に続けて、該当ページを角カッコに囲って指定する。
 例：“…とは根本的に異なるのである”¹⁵⁾ [p. 53]
 (4) 引用文献には一連番号を与える、本文中で同一文献を二度以上引用する場合には、既出の番号を用いる。(op. cit., ibid., 前掲は使用しない)
 (5) 引用文献の記載方法は『科学技術情報流通技術基準』の「SIST02 参照文献の書き方（2007年版）」に準拠する。
 (6) 以下に代表的な場合を例示する。より詳しい例示に関しては、三田図書館・情報学会の学会誌のページにある「引用文献記載例」http://lis.mslis.jp/reference_sample_LIS.pdf を参照すること。

例：

【雑誌論文】

- 1) 谷口祥一. 総合目録データに対する機械的書誌同定と著作同定の試み：ゆにかねっとレコードによる実験. 日本国書館情報学会誌. 2011, vol. 57, no. 4, p. 124-140.
- 2) Sakai, Y; Kunimoto, C; Kurata, K. Health information seekers in Japan: A snapshot of needs, behavior and recognition in 2008. Journal of the Medical Library Association. 2012, vol. 100, no. 3, p. 205-213.
- 【単行書】
- 3) Vickery, Brian C. 歴史のなかの科学コミュニケーション. 村主朋英訳. 効率書房, 2002, 268p.
- 【論文集中の論文】
- 4) Kishida, K. “Methods for cross-language information retrieval”. Bilinguals: Cognition, Education and Language Processing. Caldwell, E. F., ed. Nova Science Publishers, 2010, p. 243-286.